

信用金庫と女性の活躍

信金中央金庫 地域・中小企業研究所長
松崎 英一

信金中央金庫では、信用金庫の人材育成や課題解決を支援するため、平成24年4月から、地域・中小企業研究所において「しんきん実務研修プログラム」の運営を開始し、信用金庫役職員を対象としたセミナーや情報交換会等を開催している。東京の本店で全国の信用金庫を対象に実施するケースが多いが、研究所の職員が支店に赴き、各地区の信用金庫を対象に開催することも増えてきた。信用金庫からの要望が強く時期に合ったものを選択しながら運営しているが、最近では、営業渉外戦略、女性職員のキャリア形成、職域セールス、BCPなどのテーマに力を入れている。

なかでも女性職員のキャリア形成については、安倍政権が女性の活躍推進を成長戦略に掲げ、平成28年4月より女性活躍推進法が施行されたこともあり、信用金庫においてもその取組みは一気に加速している。その一方で、ロールモデル不足、仕事と育児の両立、融資業務のキャリア不足など、女性職員にとって越えなければならないハードルが存在している。

そこで、当研究所では、セミナーや情報交換会等を通じて、信用金庫における女性の活躍推進にかかる取組み状況について情報を共有するとともに、信用金庫で活躍している女性支店長や本部の幹部女子職員をロールモデルとして紹介することにより、女性職員のキャリアアップへのモチベーション向上やマネジメントスキルを磨く機会を提供している。

このような活動の中で、数多くの魅力あふれる女性職員とお会いすることができた。この場を借りてパネリストとして参加いただいた方から伺った話の幾つかを紹介したい。

女性管理職のフロントランナーとして選抜され、一時中断しながらも10年かけて勉強し、中小企業診断士の資格取得を果たした結果、融資業務に携わるチャンスを得て、支店長に昇進した方の話は、女性ならではの粘り強さを感じた。

また、自分が女性であることがうれしいと思っているし、仕事で男性と張り合う気持ちは一切ない。もともと異なる性別で、体力も気質も違うのだから、女性の感覚でできることに取り組むという女性支店長の発言によって、ダイバーシティの重要性を再認識した。

同じく、几帳面さ、コミュニケーション能力の高さ、気配り、柔らかい物腰など、女性ならではの強みを発揮すると言いつつも、自分の周りに理想の上司がいたら、性別に関わりなくその人がロールモデルであり、女性の中でのトップではなく、男性も含めた全体の中でのトップ

を目指すという女性支店長の力強い言葉も聞くことができた。

一方、各人の役割や目指す姿は、それぞれ違うのだから、ロールモデルは必要ないと考えている方もいた。与えられた環境の中で、その都度、自分ができることをしてきた先に、役職者としての能力や業務上のスキルを身につけた自分が存在するという考え方を持っていた。

女性がキャリアを積み、長く働くための最大の課題である仕事と育児の両立については、母としての立場から情感あふれる発言が多かった。保育園に迎えに行くのが最後になってしまった時の子供との会話を紹介し、ある時「仕事をしているママはすごくカッコいいよ」と言われたことが、仕事を続けるうえでの心の支えになったと話されていた。

また、2児の母である女性支店長は、子供が小さい頃、業務多忙で長時間勤務が続き、子育てでは同居する義母にまかせっきりだったために、子供を抱くと義母の抱き方と違うのか泣かれてしまい、寂しい思いをしたそうである。子育ての支援者が同居家族の中にいるという好条件下にあった反面、何のために子供を産み、何のために仕事をしているのか、悩んだ時期があったとのことだった。

一方、子供の病気などで急に休暇をとらざるを得なくなる時のために、自分の仕事の「見える化」に取り組んでいる方がいた。どのような仕事をしていて、その日に何をやるべきかを「見える化」しておくことで、自分が急に休んでも組織として業務が継続できるように環境を整えていた。

紙幅の関係上、この場で紹介させていただいたパネリストの話は、ほんの一部に過ぎない。また、情報交換会の参加者からの意見、会合後の懇親会での参加者からの様々な声、参加者からのアンケートを通じて、信用金庫において女性が活躍できる環境整備のヒントを多くいただいた。

本稿では、パネリストのパーソナルヒストリーに関する紹介が中心になったが、セミナーや情報交換会では、女性の活躍推進にかかる信用金庫の人事制度面の取組みも数多く紹介された。できれば、これまで実施してきたセミナーや情報交換会の内容をレポートとしてとりまとめ、情報提供したいと考えている。

女性にとって信用金庫は、生まれ育った地域で、転居を伴う異動もほとんどなく、家族の近くで仕事ができる働きやすい職場である。地元への愛に溢れ、その地域で活躍される女性は、信用金庫にとってかけがえのない人材であり、特に、窓口でお客さまに接するテラーの方や、お客さまを訪問する渉外の方は、「信用金庫の顔」と言える。内部事務においても、正確な事務処理に加え、女性ならではのきめ細やかさが事務ミスを防止しており、それが信用金庫の信用にもつながっている。

今後とも、当研究所は、能力と意欲ある信用金庫の女性職員がさらに活躍の場を拓けられるよう、研修や情報提供等に努めていきたいと考えている。